

様

向春の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。能登半島を中心に大震災が発生して1か月半になりますが、未だに避難を余儀なくされている人が少なくありません。

震災に遭われた大人もさることながら、同じく震災に遭った子どもたちの心のケアが求められています。いつもやすらぎの会にご理解・ご支援をいただき、誠にありがとうございます。このたび、第167回やすらぎの会通信ができあがりしましたので、ご覧いただければ幸いです。

今月の定例学習会は、別紙の通りです。親の会に参加された皆さんのお手紙が少しずつ元気を取り戻している様子をお聞きすると、同じ目線で一緒に考える親の会の意義・役割を痛感しております。

もし皆さんのお知り合いの方が、お子さんの不登校で苦しんだり、悩んだりしておられるようでしたら、お声をかけていただければ幸いです。予約なしでも参加できますので、お気軽にお越しいただけたらと思います。親の会では、きっと何か得られるものがあると思っております。どうかよろしくお願いたします。

令和6年2月19日

やすらぎの会代表代行 高 賢 一

## お 誘 い

代表：山 美 弥 子

「やすらぎの会」の3月の学習会は、下記の通りです。

お気軽にお越し下さい。お待ちしております。

日 時：令和6年3月16日（土）  
13時～17時

場 所：石川県白山市出城公民館  
（白山市成町406）

アドバイザー：金沢学院大学 高 賢一 特任教授

連絡先：高（山代表代行）090-8265-3968

~~~~~  
一人で悩まないで、

みんなで助け合いましょう。

~~~~~  
ちよつと覗いてみませんか！  
~~~~~





## 第167回やすらぎの会通信

令和6年2月17日(土)実施

通信をご愛読の皆さん、お元気でしょうか？能登を中心とした大地震が発生して1か月以上経過します。ライフラインは少しずつ回復しているものの、未だに避難所生活を余儀なくされ、子どもや大人の心のケアが求められています。石川県の情報は地方・全国ニュースでよく見聞きしますが、近隣の富山県や福井県の情報があまり伝わってきません。富山県氷見市などでは深刻な液状化現象が発生し、多数の半壊・全壊住宅があるようです。

### 学校に行きたいのに行けない？

#### 【高校生の事例】

ある朝突然、高校1年生の息子が「もう無理・・・」と言って学校に行かなくなりました。理由を聞いても納得いく答えが得られず、悶々とした生活が続いております。不登校についての本を読めば読むほど、子どもはもとより親や家庭に原因があると書いてあるように思えてきます。不登校になった子どもとその親は、「人生の負け組」なののでしょうか？

「他人事だと思つて綺麗ごとを言うな！」と叱責されるかもしれませんが、不登校は決して「人生の負け組」ではありません。人並みのルートを外れたからでしょうか？回り道と思えるかもしれませんが、不登校というのは子どもが自分と向き合い、今の自分を乗り越えるための大切な時期なのです。簡単に解決できることではないかもしれませんが、その子に合った関わり方がうまくできれば、必ず前に進むことができます。子どもが少しでも安心感や信頼感を味わえるように、学校とも協力して全力で支援したいものです。

子どもが不登校になった時、多くの親は自分の子育てを点検し、原因探しを本格的に始めます。親として人並みに子育てをしてきたつもりなのに、どうしてこんなことになったのだろうか、自分を責めることが少なくありません。子どもの不登校が原因で言い争っている両親を見ていると、子どもは自分自身を追いつめ、罪悪感を抱えながら人生の落伍者になったかのように少しずつ自信を失っていきます。さらに、親が子どもに「負け組」のレッテルを張り付けてしまうと、傷ついた子どもの心に追い打ちをかけることになってます。不登校は簡単に解決できることではありませんが、必ず何とかなると考えて下さい。

不登校が起きた時には、子どもに休息が必要な時が来たと考えてみて下さい。不登校は、今の自分と向き合い、自分の存在意義を確認する大切な時間だと思えます。焦らず長期戦の覚悟で見守ることも大切です。だからといって、ただ見守るとか放っておくのではなく、親は子どもの心の支え・一番の理解者となって下さい。人生に無駄なことは一つもないと思えます。少し回り道をした分だけ、子どもはたくましく生きることができるようになるはずです。ただし、ゲーム依存に伴う不登校の問題があり、昼夜逆転の生活状態に陥いる子どもに対して、親が注意すればするほど暴言・暴力など反抗的な言動をとるようになり、手に負えなくなるケースが増えています。専門家の力をお借りする必要があります。(高)



通信をご愛読の皆さん、いかがお過ごしでしょうか？能登の大震災、今後どのようになるのか不安な毎日です。山会長さんは、少しずつ快復しているようですが、まだ家族との面会時間は1日15分と限定されています。昨年10月号から、自書の『不登校だっていいじゃないか』（アントレックス社、2016年）を少しずつ紹介しております。なお、通信の送付が必要でない方は、高（090-8265-3968）まで電話かショートメールでお願いします。3月の学習会は、16日（土）13時から白山市出城公民館（076-276-1286）で行います。

### 「不登校に直面した時に考えること」



子どもの「不登校」という現実に直面して狼狽してしまうと、「この子は私たち親の期待が分かっていないのでは？」「この子は、このままでは将来どうになってしまうのか？」と疑心暗鬼に陥ってしまうことがあります。こうなると、親子の意思疎通は閉ざされてしまい、事態は悪化する方向に傾いていきます。ここで踏みとどまって考えるべきことは、「親の期待」が本当にその子の将来のためにプラスになっているのかということです。

程度の差はあるかもしれませんが、どの子どもも「親の期待に応えたい」という気持ちを持っているということです。どうして学校に行かないのかと思われるかもしれませんが、そうすることができないからです。親が子どもにかけている期待は、親が考えている以上に感じ取っていて、一生懸命に応えようとしているものです。大事なことは、その子を責めるのではなく、「良くなりたい」という気持ちを引き出すことです。

「良くなりたいという気持ち」を引き出すのは、親の愛情かもしれません。必ずどこかに気持ちを引き出すものが潜んでいます。時間がかかっても、それを見つける努力をしていきましょう。現代社会には多様な選択肢があり、その子の才能や個性に合った道を親子で探していくことの方が、むしろメリットがあるかもしれません。進学や就職の道を目指す場合でも、不登校が大きな障害になることはないと思われます。（高）